2012年6月1日開催

日刊工業新聞社主催スマートグリッド展　併設イベント

「顧客価値実現に向けた未来構想ワークショップ」開催のご報告

5月30日から6月1日に開催された日刊工業新聞社主催「スマートグリッド展」の併催企画において、株式会社日本能率協会コンサルティング（以下JMAC）は、「顧客価値実現に向けた未来構想ワークショップの開催について　～次世代コミュニティのニーズをダイナミックなストレッチ発想で構想する～」を開催いたしました。

今年で3回目の開催となるスマートグリッド展ですが、今年の共通テーマは －スマートコミュニティが実現する未来－。
展示会のメインイベントである（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下NEDO）主催のサミットも昨年までは「スマートグリッドサミット」と呼ばれておりましたが今年は「スマートコミュニティサミット」に名称を変更していることからも、自治体や企業が主導する技術実証から、地域での実用化のステージに向かっていることがうかがわれます。

この背景には、昨年の3月11日の大震災が大きく影響しているものと思われます。地震と津波により東日本の多くの街やコミュニティが被害を受け、スマートコミュニティの実現がその復興に寄与すると期待されております。また、原子力発電所の事故により、電力の安定供給が危ぶまれる状況にあり、再生可能エネルギーの高効率利用が大きな課題となっております。

一方ビジネスの側面からは、再生可能エネルギーの高効率利用と、それを実現する日本の優れたテクノロジーを有効活用し、クルマという乗り物を中心に新たな価値を「スマートコミュニティ」に見出す動きも加速しております。加えて、工業技術と農業技術の融合、農商工連携として注目が高まっている「植物工場」をスマートグリッドの視点で捉えて、ビジネス市場としての拡大を期待するという動きも出ております。

今後、スマートグリッドに関わるインフラが整備されるにつれて、「スマートコミュニティ」という新たな領域におけるさまざまな事業機会が生まれることが予想されます。そのような認識の下、我々も及ばずながら、日本の社会復興と産業振興のために何かできないだろうかと思い、日刊工業新聞社様のご協力の下、本ワークショップを企画・開催いたしました。

チーフ・コンサルタント　塚松一也

マーケティング本部の江原央樹より、日本の置かれている現在のエネルギー事情、再生可能エネルギー導入の必要性とその背景、スマートグリッドやスマートコミュニティの概念や技術実証事業の取組みと今後の事業化に向けた課題についてご紹介しました。その後、RD＆E本部の鬼束智昭、塚松一也による次世代のコミュニティにおける顧客価値検討のための未来構想法に関する考え方、事例の紹介およびワークショップを行いました。

【お問合せ】株式会社日本能率協会コンサルティング　URL:http://www.jmac.co.jp
TEL.03-3434-0982　mail :info_jmac@jmac.co.jp
©2012 JMA Consultants Inc.

スマートコミュニティ技術実証の現状と事業化に向けた課題について

江原は、クライアントに石油会社、電力会社などエネルギー産業のクライアントが多く、またNEDOが推進するスマートコミュニティアライアンスの弊社事務局を担当しエネルギー産業に対する弊社からの情報発信、プロモーション、ソリューション等の企画をしている立場から、企業、国とその外郭団体、自治体、メディア等さまざまな分野の方とネットワークを通じて得られた知見をベースにお話いたしました。ここでは、スマートコミュニティの概念や技術実証事業の取組みと今後の事業化に向けた課題について、内容の一部をご紹介致します。

コンサルティングプランナー　江原央樹

経済産業省が提唱しておりますスマートコミュニティは、欧米などでいうスマートシティと概念は近いのですが「再生可能エネルギーを住宅やビル、交通、ライフスタイル転換など、一連の社会システムとして効率的に活用する社会」と定義されています。国内でも代表的な4つの都市（北九州、けいはんな学研都市、豊田市、横浜市；あいうえお順）で実証事業が行われていますが、主にCO_2削減、省エネのための効率的な手段検討を目的とし、いわばハード的な側面から産官学が一体となって進めている状況です。

弊社では、さまざまな技術実証事業関係者の方にお話を伺う機会がありますが、ある自治体の方は、「技術は相当完成度が高くなってきているが、実証ができた後、実際に住民を含めてどのように導入・普及・運営するのかについての議論はまったく進んでいない」と悩んでおられました。そして、実際に街の復興が急務である東北の復興プロジェクトの方の話によれば、高齢化・過疎化の問題が深刻であり、豊かなくらし、安心安全な街、魅力的なコミュニティの実現がキーワードであるということでした。

現在、行われている各地の技術実証事業の目的は、主にCO_2削減、省エネを実現するための手段検討です。CO_2削減や省エネを実現することは、地球環境保護に加えて豊かなくらしや安心安全な街の実現に向けても大変重要な意味を持ちます。しかしながら、CO_2削減や省エネにより地球環境保護を実現するだけでは、スマートコミュニティの姿として十分とは思えません。豊かなくらしには雇用の創出も重要な要素ですし、安心安全な街には、人と人との信頼関係が必要です。さらに、人々が集い信頼関係を生みだす施設や場で構成される魅力的なコミュニティも今後ますます重要になると思われます。つまり、CO_2削減や省エネを実現すると同時に、最終的には、そこに住まう人々の幸福を実現することが求められるのではないでしょうか。本領域において事業化を検討する場合には、以上のようないわば住民目線の観点を持つことが重要と考えます。
（以上江原の講演より）

ワークショップ風景　鬼束智昭

参加者の方々からは、「スマートグリッド・コミュニティの基本知識について整理ができた」、「次のS字カーブを意識したことがなかったので勉強なった」、「異業種とストレッチ発想で未来を一緒に検討・議論できて新鮮だった」など非常に好評いただきました。皆様もぜひ、我々とスマートコミュニティが実現する未来について一緒に考えてみませんか？

2012/06/08　文責：田中強志、江原央樹

当日の資料をご希望の方は下記までご連絡下さい

JMAC
【お問合せ】株式会社日本能率協会コンサルティング
TEL.03-3434-0982
mail :info_jmac@jmac.co.jp
URL:http://www.jmac.co.jp